

阿南 ぶらりまち紀行 ～地域の輝き～

第139回

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!



悠遊会(福井町)

男女とも平均寿命が延び、仕事の一線を退いた後の過ごし方「セカンドライフ(第二の人生)」が注目されている。平成25年に、阿南市で開催された「日本女性会議〈男女共同参画〉2013あなん」でも、分科会のテーマ「豊かに輝いて共に生きる幸齢社会」として議論され、反響を呼んだ。マイナスのイメージで捉えがちな老後も、本人次第で楽しくすてきなものになる。

福井町のものづくりグループ「悠遊会」は、会社勤めなどを退いた方が公民館に集まり、地元の特産・竹などを使ったものづくりを通じて、充実した日々を過ごしている。また、地元小学校と交流し、子どもの地元愛を醸成することに一役買っている。

竹の産地・福井町は、かつてはタケノコの出荷や竹ぼうきの製造が町の主要な産業であった。しかし、少子高齢化や人口の都市部への流出などで竹産業に従事する人も少なくなつた。悠遊会の皆さんは、竹の産地ならではの技術や文化の一端でもこれからの若い世代に伝えたいと、



門松の作り方を教える



竹を使ってご飯を炊こう



羽子板など昔の遊びで交流



地元の子どもと竹人形づくり

福井公民館や地元の団体と連携し、積極的に地元の子どもと交流を図っている。

催しでは、少しでも竹や地元で採れたものに触れてもらおうよう工夫を凝らす。「竹でご飯を炊こう」では、竹を飯ごうに見立てて、ブロックを組んだかまどで米を炊く。炊いたご飯を食する器も竹を割って作った。子どもは竹でご飯が炊けることにびっくりしているようす。また、年末の「ミニ門松作り」は、孟宗竹や大名竹、町の山で採った松やセンリョウなどで門松を作る。ほかにも、竹で人形を作ったり、竹炭で花瓶を作ったりと竹の技術・文化を楽しく交流しながら継承している。交流の環は町内にとどまらず「阿南市こども会」へと広がっている。

「一緒に門松を作った子どもからお礼の年賀状が届いたんですよ」とうれしそうに話すのは、会長の黒川勝典さん(70歳)。「次の世代を担う子どもも地域を愛する心を育てることが、私たちの生き方です」と熱く語る。わいわいと冗談を言い合いながら活動する悠遊会の皆さんが輝いて見えた。